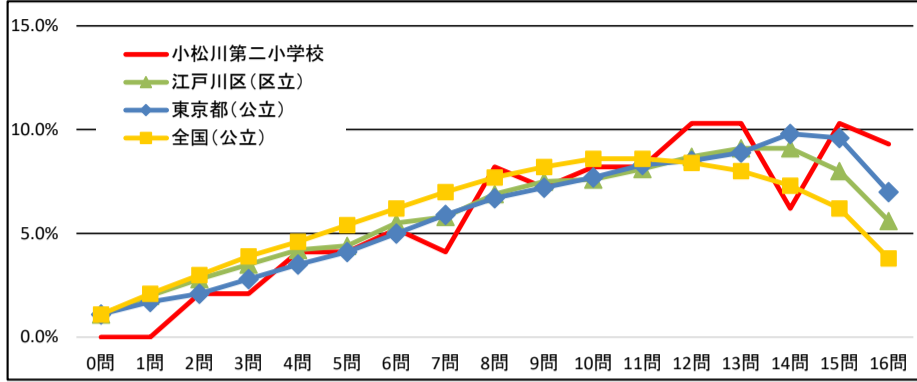


# 令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【算数】小松川第二小学校

## 正答数分布

平均正答数

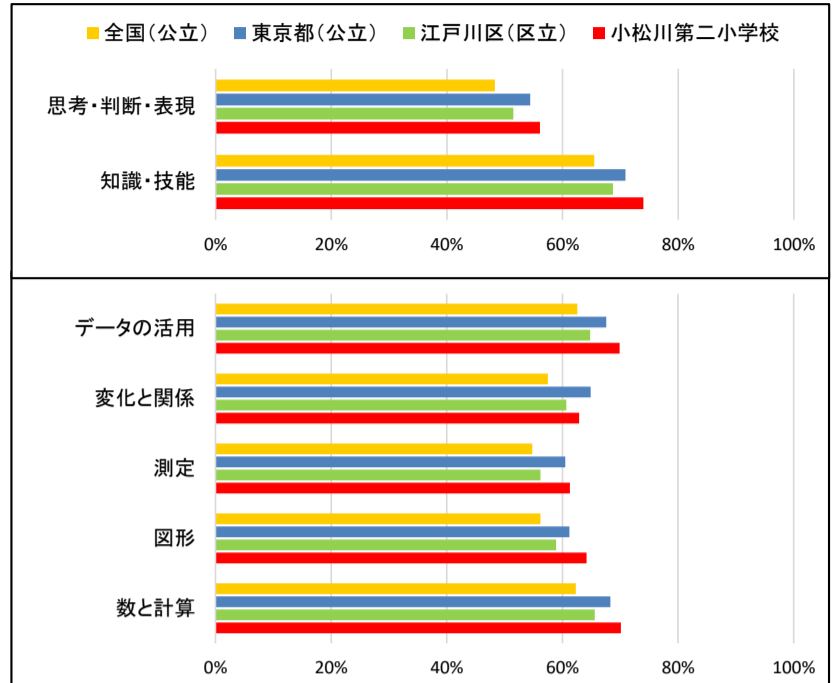
小松川第二小学校	10.6問
江戸川区(区立)	9.8問
東京都(公立)	10.2問
全国(公立)	9.3問



【平均正答率の差】

小松川第二小学校	66%
江戸川区(区立)	61%
東京都(公立)	64%
全国(公立)	58%
都との差(ポイント)	2.0

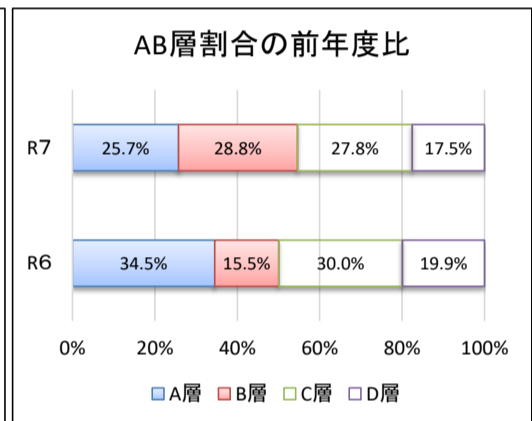
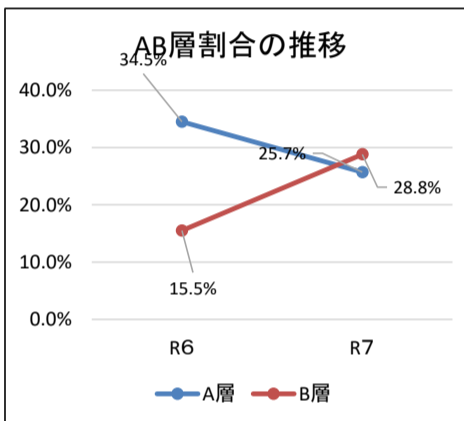
## 「領域別」の結果



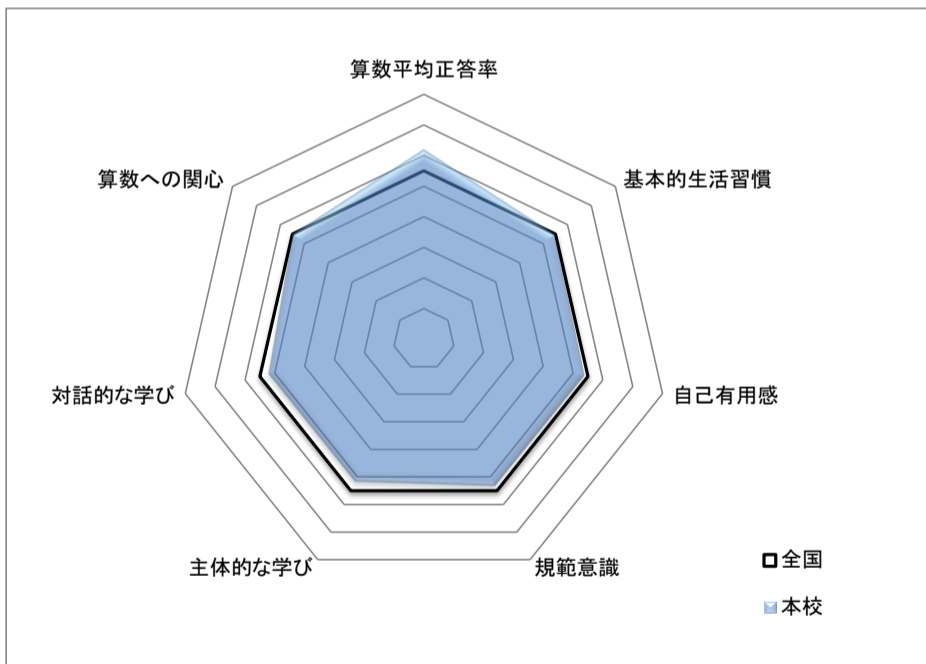
## 四分位における割合(都全体の四分位による)

算数	四分位			
	A層 14~16問	B層 11~13問	C層 7~10問	D層 0~6問
小松川第二小学校	25.7%	28.8%	27.8%	17.5%
江戸川区(区立)	22.7%	25.9%	27.9%	23.5%
東京都(公立)	26.4%	25.7%	27.6%	20.3%
全国(公立)	17.3%	25.0%	31.4%	26.3%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。下の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。



## 各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



### 《チャートの特徴》

- 平均正答率は区・都・全国平均を上回っており、基礎的・基本的な内容は概ね定着し、一方で、正答に至るまでの考え方を説明したり、複数の考えを比較・検討したりする問題では差が見られた。
- 「解き方を覚える」学習から、対話を通して「なぜそうなるのかを考える」学習への転換が今後の課題である。
- 学習への主体性や自己調整力に関する項目からは、「間違い直し」や「振り返り」を学習改善につなげる力に個人差が見られる。

### 《家庭・地域への働きかけ》

- 学校での頑張りを家庭に伝え、家庭での習慣を学校で認めるという循環を作れるようにする。
- 児童が「自分の成長を見守られている」と感じる安心感をもたせる。

### 《現状把握》

#### ●AB層の割合と取組内容について

- AB層が50%を超える一方で、複雑な文章題や図形の問題、思考の過程を説明・記述する問題に課題が見られる児童もいる。
- CD層の児童には、基本的な計算技能や問題文を正確に読み取る力に課題が見られる。

### 《学校の取組》

#### ・教員の指導力向上

- OJT研修や校外研修を通して、児童がどこでつまづいたのか、どのような発問や支援が有効であったかを具体的に協議し、授業改善につなげる。

#### ・基礎学力の保障

- 既習事項の復習を学期の始めや単元導入時に行い、基礎・基本の定着を図る。
- 問題文の必要な部分に線を引いたり、問われている内容を整理したりする活動を繰り返し、立式につなげる力を育成する。
- 朝学習や江戸川っ子スタディーウィークを活用し、課題を焦点化した反復学習を計画的に行う。

#### ・学習習慣の確立

- 教員と保護者が学習記録を共有することで、「努力が認められている」と実感できるよう、保護者会で伝えるなど環境づくりを行う。
- 朝学習の時間や江戸川っ子スタディーウィークでは、児童一人ひとりの理解度に応じた課題に取り組みせ、主体的に学ぶ態度を育成する。

#### ・AB層の育成

- 「できる」段階から、「説明できる」「活用できる」段階への伸長を目指す。問題形式の慣れだけでなく、「どこで迷ったのか」「何を根拠に考えたのか」を言語化する活動を通して、思考の質を高める。
- 誤答については、「できなかった問題」として扱うのではなく、「学びが深まる材料」として活用し、解き直しの価値を共有する。
- 朝学習や江戸川っ子スタディーウィークでは、ドリルパーク、ミライシードのカルテ機能を活用し、一人ひとりの理解状況に応じた個別最適な学習を進める。